



# 佐渡金銀山 未来に残そう 世界遺産

## 金銀山よもやまばなし(12)

### 高任 破砕場

昭和13年(1938)高任の道遊坑および機械工場から続く軌道上に破砕場が建設されました。一連の施設として、尾根の下にベルトコンベアーと鉱倉所があります。破砕場は高任から間の山へ下る高低差20mの斜面に張り付く鉄骨造の建築物で、斜面頂部、中腹部、の3棟から構成されます。斜面頂部は斜面側1/2の壁をコンクリートの基礎で立ち上



げ、これより上部を鉄骨造平屋建て切妻屋根とし、外壁および屋根とも波板スレート張りです。内部には坑内から搬出されてきた坑車を回転させる1トン鉱車用チップラーがあり、これで鉱石を破砕場へ落としています。中腹部は壁の約8割をコンクリートで構築し、残りの上部を鉄骨造としています。片流れ屋根で斜面頂部のコンクリート基礎壁面に納まっています。仕上げは外壁および屋根とも波板スレート張りになっています。

間の山駐車場部は3層吹き抜けの鉄骨造平屋建てです。1層目は西面(駐車場側出入り口面)を除き両妻側および斜面側

はコンクリートの基礎を立ち上げています。南から2スパン目から3スパン目にかけて、南北の棟に対し東側(中腹部側)へ直行する切妻屋根をのせています。柱は山形鋼と平鋼のリベット溶接による鉄骨トラス柱で、大立堅坑の檜が平鋼を十字に交差するのに対し、破砕場の平鋼はV字のトラスを組んでいます。小屋組は山形鋼を用いたフィンクトラスとし、トラスの陸梁を水平ブレスで押さえています。このトラスの合掌に対し木材の母屋を掛け、波板スレートを張っています。斜面頂部と中腹部の2棟が200t鉱倉、間の山駐車場部が破砕場となっています。破砕場には昭和63年秋まで稼働していた破砕機が残っています。また、破砕場は地下構造となっており、現在の駐車場面の地下部分を通りベルトコンベアー上屋まで運ばれる構造となっています。

現在、破砕場の鉄骨部はさびによる劣化がみられ、屋根

および外壁は破損が大きく特に中腹部の軒北側は大きく損壊し、間の山駐車場部の西側は波板スレート板が目違いを起すとともに、木製建具まわりは腐朽が進んでいます。間の山地区で最も高く大きな建物で、鉱倉所と並ぶ雄大なその景観は佐渡鉱山全盛期をほうふつさせるのに十分な規模と言えるでしょう。斜め向かいに間の山搗鉱場が位置しています。現在はコンクリート基礎部分が残っているだけです。基礎だけの搗鉱場と建物と内部の機械が残っている破砕場では、訪れる人々への印象には大きな差が生じると思います。破砕場は鉱倉所とともに、平成元年の休山近くまで利用されたため、現在の姿をとどめ今日に至っています。前記のように、長年風雨にさらされたことにより、傷みの著しいところもあります。

現在、破砕場の鉄骨部はさびによる劣化がみられ、屋根



株式会社ゴールデン佐渡で、その都度修理をされ、維持管理に努めています。平成16年下相川在住の安田誠氏が昭和13年当時の破砕場建設工事のガラス乾版を発見しました。当時の工事の様子が何枚も記録され、着工から完成に至るまでの詳細が記録されている貴重なものでした。広く子どもたちの学習等にご利用ください。いと佐渡市に寄贈されました。この貴重な近代化遺産を、後世により良い形で残さなくてはならないと思います。

佐渡金銀山室

〒74-3115